

官
佛
蘭
西
法
律
書
民
法
一
五

四	四	門	新
一	一	一	一
九	九	四	四

CF2
3
07

一
共
十
六
本

明治二十八年未刊行

文部少博士箕作麟祥口譯

以上單筆受

仙蘭西

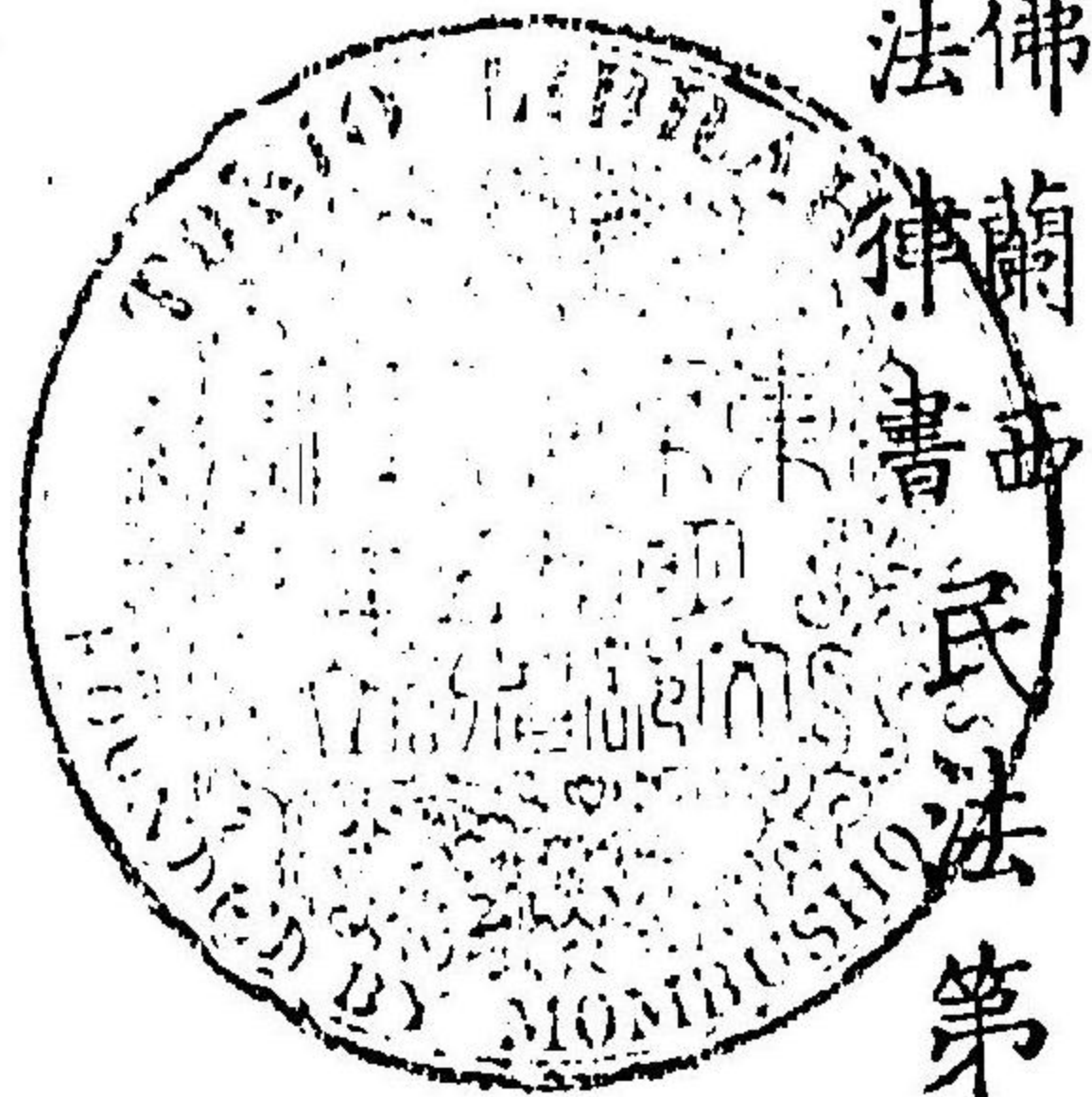
法律書

民法

文部省

C72
3
07

佛蘭西法律書 民法第十五



文部少博士箕作麟祥口譯

明治二十八年未刊行

第十八卷

ノ義務ヲ得ル者可キ者ニ先チテ及ヒボ
テ一クノ權債主貸高ノ引當トレテ不
動産書入一千八百四年第三月十九日決
定同月廿九日布告

第一章 總規則

佛蘭西民法

第十八卷第一章

文部省

CF2
3
07

明治三十年未刊行

文部少博士箕作麟祥口譯

以上筆筆受

仙蘭西

法律書

民法

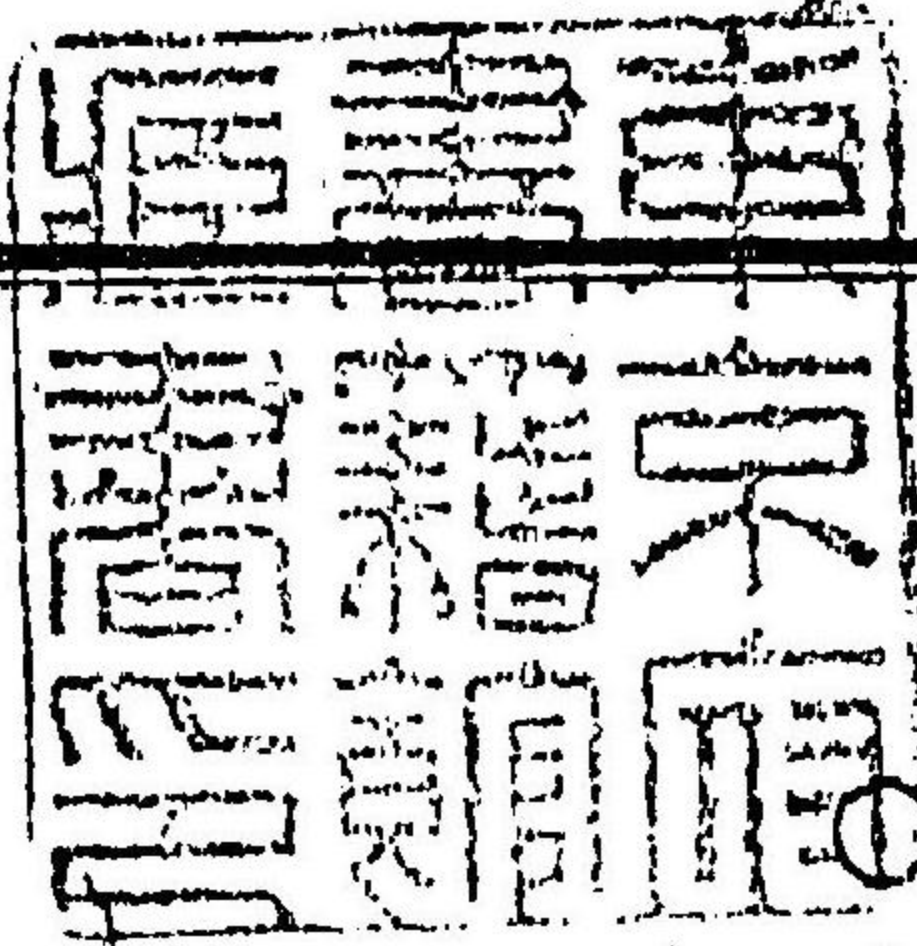
文部省

佛蘭西民法第十五



文部少博士箕作麟祥口譯

明治三十年文部省交付



第十八卷

アリタレレノ權義務ヲ得

ノ義務ヲ得ル可キ者ニ先チテ及ヒボ

テ一ノ權債主貸高ノ引當トレテ不

動産書入一千八百四年第三月十九日決

定同月廿九日布告

○第一章 總規則

佛蘭西民法

第三卷第一章

文部省

第二千九十二條 義務ヲ負フタル者ハ現今所有シ又ハ後ニ所有ト為スヲアル可キ総テノ動産及ヒ不動産ヲ以テ其義務ヲ盡シス可レ

第二千九十三條 義務ヲ得可キ數人ハ義務ノ行フ可キ者ノ財産ヲ相與ニ引當ト為スモノニシテ通常其財産ノ價高ヲ其義務ヲ得可キ數人ニ各其義務ノ高ノ割合ヲ以テ分派ス可レ然レ義務ヲ得可キ者ノ中一人ノ為メ他人ヨリ先キニ其義務ヲ得可キ正當ナル原由ル時ハ格別ナリトス

第二千九十四條 義務ヲ得可キ人他人ヨリ先ニ義務ヲ得可キ正當ノ原由ハアリタレバ「」ノ權及ヒ「イポテーク」ノ權ニアリトス

○第二章 「アリタレバ」ノ權

第二千九十五條 「アリタレバ」ノ權トハ義務ヲ得可キ一人其義務ノ種類ニ因リ他ノ義務ヲ得可キ者ノ「非ス」イポテークノ權ヲ有スル者ヨリモ先ニ其義務ヲ得可キ「權」ヲ云フ

第二千九十六條 「アリタレバ」ノ權ヲ有スル

者數人アル時ハ其アリタレドジノ權ノ種類ニ因リ其義務ヲ得可キ順序ヲ定ム可シ

第二千九十七條 アリタレドジノ權ヲ有シタル數人其義務ヲ得可キ順序ノ相等シキ時ハ其得可キ義務ノ高ノ割合ヲ以テ平等ニ其義務ヲ分チ之ヲ得可シ

第二千九十八條 官ノ會計局ノアリタレドジノ權及ヒ其權ニ因リ義務ヲ得可キ順序ハ此等ノ事ニ管レタル別段ノ法律ヲ以テ之ヲ規定ス但シ官ノ會計局ハ既ニ他人ノ得タル權

利ノ阻害トナル可キアリタレドジノ權ヲ得可カラス

第二千九十九條 アリタレドジノ權ハ義務ヲ行フ可キ者ノ動産又ハ不動産ニ付キ之ヲ行フヲ得可シ

○第一款 動産ニ付テノアリタレドジノ權

第二千百條 アリタレドジノ權ハ總テノ動産ニ付キ行フモノニアリ又ハ別段定マリシ動産ニ付キ行フモノアリ

○第一節 總テノ動産ニ付テノ権利ノ權

第一千一百一條

總テノ動産ノ付テノ權利

一、レノ權ヲ得可キ諸件ハ左ニ記列スル所ノモノニシテ且左ノ順序ニ從ヒ其權ヲ行フ可

第一 裁判所ノ費用

第二 喪禮ノ費用

第三 死去スル時ノ病ノ費用

但シ其費用ノ償ヲ得可キ者數人アル

時ハ其得可キ義務ノ高ノ割合ヲ以テ平等ニ其權ヲ行フ可シ

第四 雇入ラレシ者ノ既ニ經過レタル

一年間ノ雇賃及ヒ現在ノ一年間ノ雇

賃ノ中既ニ受取リ期限ニ至リレ部分

第五 義務ヲ行フ可キ者及ヒ其家族ニ

給レタル飲食料

但シ^{コウ}麵^ヤ包^{コウ}舖及ヒ屠者等ノ如キ零賣ヲ

為ス者ハ前六^{コウ}月間給レタル者ノ為

其アリタレシノ權ヲ行ヒ又私塾ノ

授業師及ヒ卸賣ヲ為ス商人ハ前一年
間給シタル物ノ為メ其「プリオリ」
ノ權ヲ行フ可シ

○第二節 別段定マリシ動産ニ付
テ「プリオリ」ノ權

第一千二百二條 別段定マリシ動産ニ付テ「
プリオリ」ノ權ハ左ノ如シ

第一 土地又ハ家屋ノ貸借ノ證書公正
ノ書ナル時又ハ私書ト雖モ日附ノ分
明ナル時ハ其土地又ハ家屋ノ貸主其

貸借中ニテ既ニ受取ル可キ期限ニ至
リシ部分並ニ未タ受取り期限ニ至ラ
サル部分ノ償ヲ得可キ為メ其土地又
ハ家屋ノ本年ノ收納ト借主ノ其家屋
又ハ土地ニ具備シタル諸物件ノ價高
並ニ其土地ノ耕作ニ用フル諸物件ノ
價高トニ付キ「プリオリ」ノ權ヲ行
フ可シ但シ此場合ニ於テ借主ノ債主
ハ其土地又ハ家屋ノ貸借期限ノ終ニ
至ル迄借主ニ代リ其土地又ハ家屋ヲ

己ニ借受ケテ更ニ之ヲ他人ニ貸渡シ
 其貸賃ヲ以テ己ノ貸金ノ償ニ充テ用
 フルヲ得可シ然レ其土地又ハ家屋
 ノ貸主ニ猶償ヒ殘シタル高アル時ハ
 其土地又ハ家屋ヲ貸主ニ代テ己ニ借
 受ケタル債主ヨリ之ヲ償フ可シ
 若レ又土地又ハ家屋ノ貸借ノ公正ノ證
 書アラサル時又ハ私書ニレテ其日附
 ノ分明ナラサル時ハ其貸主本年ノ終
 ヨリ更ニ一周年間ノ貸賃ノ償ヲ得可

キ為ノ前項ニ記シタルアリキレ
 ノ權ヲ行フヲ得可シ
 又貸主借主ヲレテ家屋ノ小補理ヲ為
 サシメ又ハ總テ契約ノ如ク執行ハシ
 ムル為メ亦同上ノアリキレノ權
 ヲ行フ可シ
 然レ種子ノ費用ノ償又ハ本年ノ收納
 費用ノ償ヲ土地ノ借主ヨリ得可キ者
 ハ其土地ノ貸主ヨリ先ニ收納物ノ價
 高ヲ以テ其償ヲ得可キアリキレ

ノ權ヲ行フコトヲ得可シ又其土地ノ借主ニ農業ノ器具ヲ貸貸シタル者ハ其土地ノ貸主ヨリ先ニ其器具ノ價高ヲ以テ其貸貸ノ償ヲ得可シ
 土地又ハ家屋ノ貸主ハ借主ノ其家屋又ハ土地ニ具備シタル動産ヲ己ノ承諾ナクシテ他所ニ搬運シタル時其動産ヲ差押ユルコトヲ得可シ但シ其貸主ハ借主ノ土地ニ具ヘタル動産ニ付テハ四十日ノ期限内又家屋ニ具ヘタル

動産ニ付テハ十五日ノ期限内ニ其動産ヲ償トシテ得ント訴ヘタルニ於テハ其動産ニ付キ「ブリヂ」ノ權ヲ有ス可シ訴訟法第八百二十六條以下見合ニ
 第二 債主其貸高ノ為メ質物ヲ得タル時ハ其質物ニ付キ「ブリヂ」ノ權ヲ有ス可シ
 第三 他人ノ品物ヲ保全スル為メ費用ヲ出シタル者ハ其品物ニ付キ「ブリヂ」ノ權ヲ有ス可シ

第四 動産ヲ買ヒ入レタル時其價ヲ拂
 可キ期限ヲ定メタルト否トヲ問ハ
 ス其買主未タ其價ヲ拂ハスレテ猶其
 動産ヲ有スル時ハ賣主其賣リタル動
 産ニ付キブリウレレシノ權ヲ有ス可
 シ
 動産ヲ賣拂ヒ其價ヲ拂フ可キ期限ヲ
 定メサル時其價ヲ得サル賣主其動産
 ヲ引渡シタルヨリ八日内ニ之ヲ取戻
 サント訴出シ且其動産ノ模様其引渡

シノ時ト異ナルトナキニ於テハ其動
 産ヲ買主ノ有スル時間何レノ時ニ於
 テモ之ヲ取戻サント訴フルノ權ヲ有
 レ且買主ヨリ更ニ之ヲ他人ニ賣拂フ
 ト拒ムヲ得可レ
 賣主ノアリキレシノ權ヲ行フ順序
 ハ家屋及ヒ土地ノ貸主ノアリキレシ
 シノ權ノ次ニ在リトス但シ其貸主其
 家屋又ハ土地ニ備ハリタル動産ハ其
 借主ノ所有ニ非サルトヲ知リタルハ

證アル時ハ格別ナリトス

此規則ヲ以テ商人ノ賣リタル物品取

戻ノ訴ニ付テノ商法ノ規則ヲ改ムル

一 ナシ商法第五百七十四條以下見合

第五 旅舎ノ主人旅客ヨリ算計ヲ得ル

ニハ其旅客ノ旅舎ニ搬運シタル荷物

ニ付キブリタレドモノ權ヲ有ス可シ

第六 荷物ノ運送ヲ為ス者其運送ノ費

用及ヒ之ニ附帶シタル費用ノ償ヲ得

ルニハ其運送シタル荷物ニ付キブリ

タレドモノ權ヲ有ス可シ

第七 官吏其職務ヲ行フニ付キ不正ノ

所為アルニ因リ官府又ハ士民其官吏

ヨリ償ヲ得ルニハ其官吏其職ニ任ス

ルニ付キ出シタル保證高ノ母銀ト息

銀トニ付キブリタレドモノ權ヲ有ス

可シ

○第二款 不動産ニ付テノブリタレ

ドモノ權

第二百三條 不動産ニ付テノブリタレドモ

ノ權ヲ有スル者ハ左ノ如シ

第一 不動産ヲ賣リタル者ハ其價ヲ得ル為ノ其賣リタル不動産ニ付キ、
 買入レタル者其價ノ全部又ハ一部ヲ拂ハサル時ハ最初ノ賣主第二次ノ賣主ヨリ先ニ償ヲ得第三次ノ賣主ヨリ先ニ償ヲ得其他皆之ニ倣フ可レ

第二 不動産ヲ買入ル、為メ、金高ヲ

買主ニ貸與ヘシ者其貸渡ノ證書ニ其金高ハ不動産買入ノ用ニ供スル為メ貸與ヘシモノタルヲ公正ニ證シ且賣主ノ受取書ニ其買主ノ拂、タル金高ハ其貸主ノ貸與ヘタル金高ナルヲ公正ニ證シタル時其貸主其不動産ニ付キ、
 買主ヨリ先ニ償ヲ得

第三 遺物相續人等ハ財産平等ナル分派ヲ得可キ保證ヲ得ル為メ及ヒ其中

一人其得可キ部分ヨリ更ニ餘分ヲ得タル時ハ其餘分ヲ還サシムル保證ヲ得ル為メ遺物ノ不動産ニ付キアリ

第四 建築者請負人巧丁其他家屋ヲ建造レ溝渠ヲ穿開シ及ヒ此等ノ物ヲ修理レ又ハ其他ノ造築ヲ為スタメ使用ヲ受ケタル工丁其建造修理等ヲ為ス地ノ下等裁判所ヨリ任シタル評價人ヲシテ其地ノ模様ヲ證スル調書ヲ預

シメ記セシメ且其建造修理等ノ完成レタルヨリ六月内ニ裁判所ヨリ任シタル評價人ヲシテ再ヒ其建造修理レタル物ノ調書ヲ記セシムル手續ヲ為シタル時ハ其償ヲ得ル為メ其不動産ニ付キアリケレシノ權ヲ有ス可レ然レモ「ブリウレ」ノ權ヲ行フ可キ價高ハ再度ノ調書ニ記シタル價高ニ過ク可カラスレテ通常ハ造築修理等ヲ為シタルニ因リ其造築物ヲ其所有

者ニ引渡ス時其地價ノ以前ヨリ更ニ増シタル高ノミニ限ル可シ

第五 又工丁ノ雇賃ヲ拂フ可キ為メ其金高ヲ貸與ヘタル者モ亦前項ニ等シキアリウレージノ權ヲ有ス可シ但レ其權ヲ得ルニ付テハ其金高ノ貸借ノ證書ニ其金高ハ工丁ノ雇賃ニ供ス可キヲ公正ニ證シ且工丁ノ受取書ニ其金高ヲ以テ其雇賃ヲ得タルヲ公正ニ證ス可キヲ此條ノ第二ニ記

スル所ニ等シトス

○第三款 動産ト不動産トニ及ホス可キアリウレージノ權

第二千百四條 動産ト不動産トニ及ホス可キアリウレージノ權ハ第二千百一條ニ記載レタル所ノモノトス

第二千百五條 前條ニ記シタルアリウレージノ權ヲ有スル者其得可キ動産ナキニ因リ不動産ノ價高ヲ以テ其償ヲ得ントシ不動産ノミニ付キアリウレージノ權ヲ有レタル者ノ

權ト相觸ル、トアル時、此等ノ者左ノ順序ヲ以テ其償ヲ得可シ

第一 第二千百一條ニ記載シタル裁判

所ノ費用及ヒ其他ノ諸件ニ付キ、^レグ^レリ^レノ權ヲ有スル者

第二 第二千百三條ニ記載シタル諸件

ニ付キ、^レグ^レリ^レノ權ヲ有スル者

○第四款 ^レグ^レリ^レノ權ヲ保ツ

可キ方法

第二千百六條 義務ヲ得可キ者數人ノ間ニ於

テハ不動産ニ付テノ^レグ^レリ^レノ權ヲ^レイ
ボテ^レク管轄者ノ簿冊ニ法則ニ循ヒ記入シ
之ヲ公ケニ為シタル日ヨリ後ニ非サレハ其
効ヲ生スル^レトナル可シ但シ後條ニ記スル
所ハ格別ナリトス

第二千百七條 第二千百一條ニ記シタル諸件

ニ付テハ前條ニ記シタル簿冊ニ記入スルノ
法式ヲ行フニ及ハス

第二千百八條 不動産ノ買主其不動産所有ノ
權ヲ得タル證書ヲ^レイボテ^レク管轄者ノ別段

簿冊ニ寫サレノ其價高ノ全部又ハ一部ヲ
 未タ渡サレル證アル時ハ其賣主アリテレ
 ジノ權ヲ保ツ可レ但レ此事ニ付キ買主其賣
 買ノ證書ヲ其別段ノ簿冊ニ寫サレタル時
 ハ賣主ノ為メ及ヒ買主ニ金高ヲ貸與ヘテ賣
 主ノ權ニ代リレ者ノ為メ其アリテレレ
 權ヲ通常ノ「イボテ」クノ簿冊ニ記入シタル
 ト同一ノ効アリトス然レ「イボテ」クノ管轄
 者ハ不動産賣買ノ契約ニ因リ生シタルアリ
 テレレレレノ權ヲ賣主ノ為メ及ヒ買主ニ金高

ヲ貸與ヘタル者ノ為メ自己ノ職務ヲ以テ必
 ス其通常ノ「イボテ」クノ簿冊ニ記入ス可シ
 若シ其管轄者其記入ヲ為サスレテ他人ノ為
 ノ損害ヲ生スル「イボテ」クノ時ハ之ヲ償フ可レ
 又賣主及ヒ買主ニ金高ヲ貸與ヘタル者ハ買
 主其賣買ノ證書ヲ別段簿冊ニ寫サレメサル
 ニ於テハ其「イボテ」レレノ權ノ記入ヲ得ン
 カ為メ自カラ其賣買ノ證書ヲ別段ノ簿冊ニ
 寫ス可キ「イボテ」クノ管轄者ニ求ムル
 「イボテ」ク得可シ

第二千九百九條 遺物相續人等ハ遺物財産平等ノ分派ヲ得可キ保證ヲ得ル為メ及ヒ其中ノ一人其得可キ部分ヨリ更ニ餘分ヲ得タル時ハ其餘分ヲ還サシムルノ保證ヲ得ル為メ又ハ遺物ノ不動産ヲ糶賣ニ為シタル其價ヲ得ル為メ其遺物分派ノ時又ハ糶賣ノ時遺物相續人ノ一人糶賣ニシテ其不動産ヨリ六十日以内ニ其價ヲ買入レシムル場合不動産ヨリ六十日以内ニ其價ヲ買入レシムル權ヲ「イポテーク」管轄者ノ簿冊ニ記入セシメタルニ於テハ其分派シタル遺物ノ財産又ハ糶賣ト為シタル遺物ノ財産ノ

價ニ付キ「イポテーク」ノ權ヲ保ツ可シ但シ其六十日ノ期限内ニハ其分派シタル財産又ハ糶賣ト為シタル財産ヲ「イポテーク」ト為シテ「イポテーク」ノ權アル遺物相續人ノ損害ヲ為ス可カラス

第二千百十條 建築者請負人巧丁及ヒ其他家屋ヲ建造シ溝渠ヲ穿開シ及ヒ此等ノ物ノ修理ヲ為シ又ハ其他ノ造築ヲ為ス為メ使用ヲ受ケタル工丁又ハ此等ノ者ニ雇賃トシテ與フ可キ金高ヲ貸與ハ其金高ノ用法ヲ證スル

「得タル者」其建造修理ヲ為ス前ノ其地
ノ模様ヲ證シタル調書ト其建造修理ヲ完成
シタル後其造營物ヲ其所有者ニ引渡シタル
時ノ調書ト「イポテーク」管轄者ノ簿冊ニ記
入セシメタルニ因リ最初ノ調書ヲ記入シタ
ル日ヨリ「プリウレージ」ノ權ヲ得可シ

第二百一十一條 第八百七十八條ニ循ヒ死者
ノ財産ヲ其相続人ノ財産ト分別スル「イポテーク」
ムル死者ノ債主及ヒ遺囑ノ贈遺ヲ受ク可キ
者ハ其遺物相續ノ始マリシ時ヨリ六月内ニ

其死者ノ各不動産ニ付キ「プリウレージ」ノ權
アル「イポテーク」管轄者ノ簿冊ニ記入セ
シメタルニ因リ其相続人ノ債主又ハ死者ノ
代權人ノ債主ニ對シ其不動産ニ付テ「プリ
ウレージ」ノ權ヲ保ツ可シ

其六月ノ期限内ニハ死者ノ遺物相續人又ハ
其代權人前項ニ記シタル不動産ヲ「イポテーク」
クト為シテ死者ノ債主及ヒ遺囑贈遺ヲ受ク
可キ者ノ損害ヲ為ス可カラス

第二百一十二條 前數條ニ記シタル「プリウレ

一、レノ權ヲ讓リ受ケタル者ハ之ヲ讓リタル者ニ代リテ其者ト同一ノ權ヲ行フ可シ

第一千百十三條 前數條ニ記シタル如ク「イポ
テ」ノ權ヲ保ツ可キ者其法式ニ背キタル時ト
雖「イボテ」ノ權ヲ保ツノ差支トナルコ
トナル可シ然レ後第一千百三十四條ニ記スル
所ノ如ク其「イボテ」ノ權ヲ其管轄者ノ簿
冊ニ記入シタル時ヨリ後ニ非サレハ他人ニ
對シテ「イボテ」ノ權ヲ得可カラズ

○第三章 「イボテ」ノ權

第一千百十四條 「イボテ」ノ權トハ義務ヲ
行フ為メノ保證ト為シタル不動産ニ付テノ
物權ヲ云フ

其權ハ分ツ可カラサルモノニシテ其各不動
産及ヒ不動産ノ各部ニ付キ之ヲ行フ可レ
其權ハ其不動産如何ナル者ノ所有トナルヲ
問ハス之ヲ行フヲ得可シ

第一千百十五條 「イボテ」ノ權ハ法律ヲ以
テ定メラル場合ト法式トニ非サレハ之ヲ得

可カラス

第二千百十六條 「イポテーク」ノ權ハ法律上ニ
 テ得ルモノアリ又ハ裁判所ノ言渡ニ因リ得
 ルモノアリ又ハ契約ニ因リ得ルモノアリ
 第二千百十七條 法律上ニテ得ル所ノ「イポテ
 ーク」ノ權トハ法律ニ因リ生スル所ノ「イポテ
 ーク」ノ權ヲ云フ
 裁判所ノ言渡ニ因リ得ル所ノ「イポテーク」ノ
 權トハ裁判所ノ言渡又ハ裁判所ニテ記スル
 證書ニ因リ生スル所ノ「イポテーク」ノ權ヲ云

フ
 契約ニ因リ得ル所ノ「イポテーク」ノ權トハ契
 約ヨリ生レ契約書及ヒ證書ノ法式ニ管スル
 「イポテーク」ノ權ヲ云フ

第二千百十八條

第一 賣買ヲ為スルヲ得可キ不動産及
 ヒ其不動産ニ附帯シテ不動産ト看做
 ス可キ物
 第二 同上ノ不動産ノ入額所得ノ權及
 ヒ其入額所得ノ權ノ繼續スル時間其

不動産ニ附帯シテ不動産ト看做ス可
キ者、入額所得ノ權

此等ノ物ハ「イポテーク」ト為スヲ得可シ

第一千百十九條 動産ハ「イポテーク」ト為ス可

カラス

第一千百二十條 此法律ヲ以テ船舶ニ付テノ

海上貿易ノ規則ヲ改ムルヲナシ商法第百九

合

○第一款 法律上ニテ得ル所ノ「イポ

テーク」ノ權

第一千百二十一條 法律上ニテ「イポテーク」ノ

權ヲ生ス可キ權利ハ左ノ如シ

第一 婚姻シタル婦其夫ノ財産ニ付テ
ノ權利

第二 知者及ヒ治産ノ禁ヲ受ケレ者其
後見人ノ財産ニ付テノ權利

第三 官府「コムニユール」公ケノ建造物
其租稅官吏及ヒ會計官吏ノ財産ニ付
テノ權利

第一千百二十二條 法律上ニテ得ル所ノ「イポ

テ「ク」ノ權ヲ有スル者ハ義務ヲ行フ可キ者
ノ現在有スル總テノ不動産及ヒ後日其者ノ
得ル「ア」アル可キ總テノ不動産ニ付キ其權ヲ
行フ「イ」ヲ得可シ但シ後條第ニ千百四「ト」ニ記
スル所ハ格別ナリトス

○第二款 裁判所ノ言渡ニ因リ得ル
所ノ「イ」ポテ「ク」ノ權

第二千百二十三條 裁判所ノ言渡ニ因リ得ル
所ノ「イ」ポテ「ク」ノ權ハ原告被告雙方ノ面前
ニ於テ裁判ノ言渡シタルト其一方ノ者ノ抗

傳シタル時裁判ヲ言渡シタルト「ア」問ハス又
其裁判確定ノモノタルト假「イ」モノタルト「ア」
問ハス其裁判言渡ニ因リ之ヲ得可シ○又其
權ハ義務ヲ記シタル私ノ證書ノ姓名ノ手署
ヲ其義務ヲ行フ可キ者裁判所ニテ自認シタ
ルニ因リ又ハ其姓名ノ手署ヲ驗真シタルニ
因リ之ヲ得可シ
其「イ」ポテ「ク」ノ權ハ義務ヲ行フ可キ者ノ現
在所有スル總テノ不動産及ヒ後日其得ル「ア」
アル可キ總テノ不動産ニ付キ之ヲ行フ「イ」

得可シ但レ後ニ記スル所ハ格別ナリトス第二千二百二十九條第二千六百三十一條見合ニ判断人
二十條見合ノ決定ハ裁判所ヨリ其決定ノ如ク執行ヲ可キノ言渡ヲ得タル上ニ非サレハ其決定ニ因リ「イボテ」クノ權ヲ得可カラス又外國ノ裁判所ニテ「イボテ」クノ權ヲ得可キ言渡ヲ為シタルト雖モ佛蘭西ノ裁判所ニ於テ其言渡ノ如ク執行ヲ可キ「イボテ」言渡シタル上ニ非サレハ其「イボテ」クノ權ヲ得可カラス但レ建國法又ハ外國トノ條約書ニ之ニ

及レタル規則アル時ハ格別ナリトス

○第三款 契約ニ因リ得ル所「イボテ」クノ權

テ「イボテ」クノ權

第二千二百二十四條 契約ニ因リ得ル所「イボテ」クノ權ハ自己ノ隨意ニテ其不動産ヲ賣拂フ「イボテ」得可キ權アル者ニ非サレハ之ヲ其義務ヲ得可キ者ニ與フル「イボテ」承諾スルヲ得ス
 第二千二百二十五條 不動産確定ノ所有ノ權ナク唯未必ノ偶生ノ事ニ管スル所有ノ權又ハ

後ニ解除スルコトアル可キ所有ノ權又ハ後ニ
 廢棄セラル可キ所有ノ權ヲ有スル者ハ其不
 動産ヲ「イポテ」ト為スニ付キ必ス後ニ其
 「イポテ」トクヲ解除スルヲ得可キ契約又ハ後
 ニ廢棄スルヲ得可キ契約ヲ以テ之ヲ為ス可
 レ

第一千二百二十六條 幼者又ハ治産ノ禁ヲ受ケ
 レ者又ハ失踪者ノ財産ヲ假リニ有スル者ハ
 法律上ニテ定ノタル原由ト法式トニ循ヒ又
 ハ裁判所ノ言渡ヲ得タル上ニ非サレハ其不

動産ヲ「イポテ」ト為ス可カラス

第一千二百二十七條 契約上ノ「イポテ」トクノ權
 ハ「イポテ」ト二頁ノ面前又ハ「イポテ」ト一頁ト
 證人ニ負トノ面前ニ於テ記シタル公正ノ證
 書ヲ以テ之ヲ得可レ

第一千二百二十八條 外國ニ於テ為レタル契約
 ニ因リ佛蘭西ニ在ル不動産ニ付キ「イポテ」
 トクノ權ヲ得可カラス但シ建國法又ハ外國ト
 ノ條約書ニ之ニ及シタル規則アル時ハ格別
 ナリトス

第一千二百二十九條 義務ヲ約シタル公正ノ證書又ハ其後ニ記シタル公正ノ證書ニ其義務ヲ行フ可キ者ノ「イポテーク」ト為ス「イ」承諾シタル其現在所有ノ各不動産ノ種類ト其所在ノ地トヲ別段記シタルニ非サレハ契約上ノ「イポテーク」ノ効ナレトス○義務ヲ行フ可キ者ハ其現在所有スル各不動産ヲ其契約書ニ記列シテ「イポテーク」ト為ス「イ」ヲ得可レ後日所有トナス「イ」アル可キ不動産ハ「イポテーク」ト為ス「イ」ヲ得ス

第一千二百三十條 然ル義務ヲ行フ可キ者ノ自由ニ為ス「イ」ヲ得可キ現在所有ノ不動産ヲ以テ其義務ノ執行ヲ保證スルニ足ラサル時ハ其不足ナル旨ヲ證書ニ記シ其後日得可キ各不動産ヲ受取ル毎ニ之ヲ「イ」ホテ「イ」ト為ス可キノ契約ヲ為ス「イ」ヲ得可レ

第一千二百三十一條 又義務ヲ行フ可キ者「イ」ホテ「イ」ト為シタル現在所有ノ不動産ノ滅盡破壊シタルニ因リ其義務ノ執行ヲ保證スルニ足ラサルニ至リシ時ハ其義務ヲ得可キ者

ヨリ直ニ其義務ヲ得ント訴へ又ハ「イボテ
」之ノ不動産ノ増加ヲ得ント求ムル「自由
」ナリトス

第一千三百三十二條 契約上ノ「イボテ」ノ權
ハ之ヲ生ゼシムル原由タル義務ノ高ヲ其證
書ニ因リ分明ニ知り得可キ時ニ非サレハ其
効ナカル可シ若シ其義務未必ノ條件ニ管シ
タル時又ハ其義務ノ高ノ分明ニ定マラサル
時ハ其義務ヲ得可キ者特ニ其義務ノ高ハ幾
許ナル可キヤヲ見積リ其高ニ至ル迄ノ外後

第一千三百四十六條 記レタル「イボテ」ノ記
入ヲ求ム可カラス但シ義務ヲ行フ可キ者ハ
其義務ヲ得可キ者ノ見積リタル高ヲ減セシ
ム可キ道理アル時之ヲ減セシムルノ權アリ
第一千三百三十三條 「イボテ」ノ權ハ其「イボ
テ」ノ下為シタル不動産ヲ良好ニ為レタル
諸件ニモ及ホス可シ

○第四款 「イボテ」ノ權ノ順序
第一千三百三十四條 義務ヲ得可キ數人ノ間ニ
於テハ「イボテ」ノ權ヲ法律上ニテ得タル

ト裁判所ノ言渡ニ因リ得タルト契約ニ因リ得タルトヲ問ハス其義務ヲ得可キ者法式ニ循ヒ「イボテ」ノ管轄者ノ簿冊ニ其權ノ記入ヲ得タル日ヨリ其順序ヲ立ツ可シ但シ後條ニ記スル所ハ格別ナリトス

第二百三十五條 左ノ諸件ニ付テハ「イボテ」ノ權ヲ其管轄者ノ簿冊ニ記入スルニ及ハスレテ之ヲ得可シ

第一 幼者又ハ治産ノ禁ヲ受ケシ者ハ其後見人ノ支配ノ事ニ付キ其後見ノ

職ヲ承諾シタル日ヨリ其後見人ノ不動産ニ付キ「イボテ」ノ權ヲ得可シ

第二 婚姻シタル婦ハ其嫁資ノ財産及ヒ婚姻契約ノ箇條ニ付キ婚姻ヲ行フタル日ヨリ其夫ノ不動産ニ付キ「イボテ」ノ權ヲ得可シ

夫婦タル時間婦ノ人ヨリ遺物トシテ得タル嫁資ノ金高又ハ贈遺トシテ得タル嫁資ノ金高ニ付テハ其遺物相續ヲ始メタル日又ハ贈遺ヲ承諾シタル日ヨリ其夫ノ不動産ニ付キ

「イボテーク」ノ權ヲ得可シ
 又婦其夫ト共ニ負フタル義務ノ償ヲ得ル為
 メ又ハ夫其婦ノ財産ヲ賣拂フタル時婦其夫
 ヲシテ其代金ヲ自己ノ資益トナル可キ法方
 ニ用ヒシムル為メニハ婦其夫ト共ニ義務ヲ
 負フタル日又ハ夫其婦ノ財産ヲ賣拂フタル
 日ヨリ其夫ノ不動産ニ付キ「イボテーク」ノ權
 ヲ得可シ
 何レノ場合ニ於テモ此條ノ規則ヲ以テ此卷
 ヲ布告セシ前ニ「イボテーク」ノ權ヲ得タル者

ノ權利ヲ害スルコトナル可レ
 第二百三十六條 夫又ハ後見人ハ己ノ不動
 産ヲ其婦又ハ幼者ノ為メ「イボテーク」ト為シ
 タルコトヲ公ケニ為スタメ現在所有ノ不動産
 ト後日得ルコトアル可キ不動産トニ付「イボテ
 ナ」クノ權ヲ「イボテーク」ノ管轄者ノ簿冊ニ記
 入スルヲ遲延ナク求ムルコトヲ必要トス
 若シ夫又ハ後見人前項ニ記セシ記入ヲ求ム
 ルコトヲ怠リ己ノ不動産ハ婦又ハ幼者ノ為メ
 「イボテーク」ト為セシモノタルコトヲ陳述スル

一ナク他人ニ其不動産ニ付テノ「ブ」リウレ
 ジノ權又ハ「イ」ボテ「ク」ノ權ヲ與フル「フ」承
 諾レ又ハ他人ノ此等ノ權ヲ得ルニ付キ故障
 ヲ述ハサル時ハ「ス」テ「リ」ヲ「ナ」ル
第二千五十九
 條ニ詳ナリ
 ノ咎アリト看做レテ禁錮セラル可シ

第二千百三十七條 後見人ノ監察者ハ後見人
 ノ支配ノ事ニ付キ其後見人ノ不動産ヲ幼者
 ノ為メ「イ」ボテ「ク」ト為「ル」タレ
昔ノ記入ヲ其
 後見人ヨリ遲延ナク求メ出ツ可キ「フ」ニ注意
 シ若レ後見人其求メク為サ、ルニ於テハ其

監察者自カラ其記入ヲ求ム可レ但レ此等ノ
 事ハ後見人ノ監察者ノ必ス自カラ任ス可キ
 所ニレテ若シ之ヲ怠リレ時ハ幼者ニ對シ其
 損失ヲ償フ可シ

第二千百三十八條 夫、後見人、後見人ノ監察者
 前數條ニ記載レタル如ク「イ」ボテ「ク」ノ記入
 ヲ求ムル「フ」ヲ怠リレ時ハ夫及ヒ後見人ノ住
 所ノ下等裁判所ノ「ブ」ロキリウルアムベリア
 シ又ハ不動産所在ノ地ノ下等裁判所ノ「ブ」ロ
 キリウルアムベリアルヨリ其記入ヲ求ム可

第一千三百三十九條 又夫或ハ婦ノ親屬及ヒ幼者ノ親族又親族ノアラサル時ハ其朋友ヨリ其記入ヲ求ムルヲ得可シ又婦或ハ幼者自カラ之ヲ求ムルヲ得可レ

第一千四百十條 丁年ノ夫婦其婚姻ノ契約書ニ別段定メタル夫ノ不動産ノミニ付キイボテ一クノ記入ヲ求ム可キヲ約定レタル時ハ其他ノ夫ノ不動産ハ婦ノ嫁資ヲ還スニ付キ又ハ婦ノ財産取戻ニ付キ又ハ婚姻ノ契約

ノ如ク執行ヲニ付テノイボテ一クノ負ヲタルモノト為ス可カラス然レ夫ノ財産ノ全部ヲイボテ一クト為サ、ル一ハ之ヲ契約ス可カラス

第一千四百十一條 又幼者ノ親族會議ニテ別段定メタル後見人ノ不動産ノミニ付キイボテ一クノ記入ヲ求ム可キヲ決議レタル時ハ其他ノ不動産前條ニ記スル所ニ等シトス
第一千四百十二條 前二條ノ場合ニ於テ夫後見人、後見人ノ監察者ノ其別段定メタル不動

産ノミニ付キ「イボテ」クノ記入ヲ求ム可シ
 第二千百四十三條 後見人ヲ任スル證書ニ後
 見人ノ不動産ノ一部ノミヲ「イボテ」クト為
 ス可キ「イボテ」別段記シタル「イボテ」ナキ時其不動産
 ノ全部ニ付テ「イボテ」クニテハ後見人ノ
 支配ノ事ヲ保證スルニ過分ナル「イボテ」分明ナル
 ニ於テハ其後見人幼者ノ為メ保證ヲ為スニ
 十分ナル不動産ノ一部ノミニ其「イボテ」ク
 ヲ減ス可キノ訴ヲ為ス「イボテ」得可シ但シ後見
 人此訴ヲ為スニハ預シメ親族會議ノ承諾ヲ

得タル上ニテ後見人ノ監察者ヲ裁判所ニ呼
 出ス可シ

第二千百四十四條 又夫ハ婦ノ承諾ヲ得且婦
 ノ最近ノ親族四人ノ會議ノ承諾ヲ得タル上
 ニテ其婦ノ嫁資ヲ還スニ付又ハ婦ノ財産取
 戻ニ付キ又ハ婚姻ノ契約ノ如ク執行フニ付
 キ「イボテ」クト為シタル其不動産ノ全部ヲ
 婦ノ權ヲ保全スルニ足ル可キ一部ニ減ス可
 キノ訴ヲ為ス「イボテ」得可シ
 第二千百四十五條 前二條ニ循ヒ夫及ヒ後見

人ノ為シタル訴ノ裁判言渡ハ「プロキリナル
 アニペリアル」ノ述フル所ヲ聽キ且其立會ヲ
 得タル上ニ非サレハ之ヲ為ス可カラス
 裁判所ニ於テ「イホテ」クヲ不動産ノ一部ノ
 ミニ減ス可キノ言渡ヲ為シタル時ハ其他ノ
 部分ニ付テノ記入ヲ塗抹ス可シ

○第四章 「プリヴィレ」ジノ權及ヒ「イポ
 テ」クノ權ヲ記入スル方法

第二千百四十六條 「プリヴィレ」ジ又ハ「イポテ
 」クノ權ハ此等ノ權ヲ負フタル不動産所在

ノ地ノ「イポテ」ク管轄ノ官署ノ簿冊ニ記入
 ス可シ○商人家資分散ヲ為ス前ニ記シタル
 證書ノ効ナカル可キ定期内商法第四百四十
 六條以下見合
 ニ其記入ヲ為シタル時ハ其効ナカル可シ
 又死者ヨリ義務ヲ得可キ者ノ中一人其遺物
 相續ヲ為シ始メタル後ニ全上ノ權ノ記入ヲ
 求メ且其遺物相續人其相續シタル財産ノ價
 額ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハサルノ特權ヲ以
 テ其遺物相續ヲ為シタル時ハ亦前項ニ等シ
 ク記入ノ効ナシトス

第二千四百四十七條 同日ニ「イポテーク」又ハ「プリオリテ」ノ管轄者其日ノ朝ニ記入シタルト夕ニ記入シタルトノ差別ヲ為シタルニ管セス其「イポテーク」ノ權ヲ同一ノ順序ヲ以テ平等ニ行フ可シ

第二千四百四十八條 義務ヲ得可キ者「プリオリテ」又ハ「イポテーク」ノ權ノ記入ヲ得ントスルニハ「プリオリテ」又ハ「イポテーク」ノ權ヲ生セシメタル裁判言渡書又ハ證書類ノ正本

又ハ公正ノ副本ヲ自身又ハ名代人ヲ以テ「イポテーク」ノ管轄者ニ出ス可シ又記入ヲ得ントスル者ハ同上ノ書類ニ添テ證印アル紙ニ記シタル箇條書ニ通テ出シ又ハ其箇條書一通ノミ出シ其一ヲ裁判言渡書又ハ證書類ノ副本ニ附記スルヲ得可シ但レ其箇條書ニハ左件ヲ記ス可シ

第一 義務ヲ得可キ者ノ姓名住所職業及「イポテーク」官署ノ管轄内ノ地ニ別段住所ヲ擇ミタル事

第二 義務ヲ行フ可キ者ノ姓名住所職業又ハ「イボテ」クノ管轄者ヲシテ義務ヲ行フ可キ者ヲ明カニ知ラシムルニ足ル可キ詳細ノ記載

第三 裁判言渡書又ハ義務ノ證書ノ日附及ヒ本義

第四 其書類中ニ記シタル義務ノ母銀ノ高又年金及ヒ未必ノ條件ニ管シタル未定ノ義務ヲ評價ス可キノ言渡アリテ其義務ヲ得可キ者之ヲ評價シタ

ル時ハ其評價シタル義務ノ母銀ノ高並ニ其母銀ニ附帯シタル高及ヒ義務ヲ得可キ期日

第五 義務ヲ得可キ者「イボテ」ノ權又ハ「イボテ」クノ權ヲ得ントスル不動産ノ種類及ヒ其所在ノ地但レ最終一項ノ記載ハ法律上ニテ得ル所ノ「イボテ」クノ權又ハ裁判言渡ニ因リ得ル所ノ「イボテ」クノ權ニ付ナハ必要ナリトセス但レ別段ノ契約

アラサル時ハ此等ノ「イボテーク」ノ權ニ付キ一個ノ記入ヲ為シタルノミニテ其「イボテーク」官署ノ管轄内ニ在ル然テノ不動産ニ其權ヲ及ホス可シ

第一千四百九條 死者ノ不動産ニ付キ「イボテーク」又ハ「ブリタニヤ」ノ權ノ記入ヲ得ルトスルニハ前條第二ニ記シタル如ク死者ヲ明カニ知り得可キ記載ヲ為ス「イボテーク」必要トス
第一千五百十條 「イボテーク」ノ管轄者ハ箇條書ニ記シタル諸件ヲ其簿冊ニ記入シ義務ノ

證書ノ正本又ハ其副本ト箇條書一通ト「其」記入ヲ求「タル」者ニ還ス可シ但シ其管轄者ハ其還與スル箇條書ノ末ニ記入ヲ為シタルノ證ヲ附記ス可シ

第一千五百十一條 息銀ヲ生スル母銀ニ付キ「イボテーク」ノ權ノ記入ヲ得タル義務ヲ得可キ者ハ本年ト其後二年トノ時間其息銀ニ付キ母銀ト同一ノ順序ノ「イボテーク」ノ權ヲ得可シ但シ最初ノ記入ニ因リ「イボテーク」ノ權ヲ得タル息銀ヨリ後ノ息銀ニ付キ更ニ其記

入ヲ求ムル時ハ其記入ノ日ヨリ「イポテーク」ノ權ヲ得可シ

第一千五百五十二條 記入ヲ求メタル者及ヒ其名代人又ハ公正ノ證書ニ因リ其權ヲ讓リ受ケタル者ハ「イポテーク」官署ノ簿冊ニ記シタル是迄ノ住所ニ易ヘ其官署ノ管轄内ニテ更ニ他ノ住所ヲ擇ミ之ヲ届出ルヲ得可シ

第一千五百五十三條 官府「コムニエーション」公ケノ建造物其會計官吏ノ不動産ニ付キ法律上ニテ得ル所「イポテーク」ノ權又ハ知者或ハ治

産ノ禁ヲ受ケレ者或ハ婚姻シタル婦其後見人又ハ其夫ノ不動産ニ付キ法律上ニテ得ル所「イポテーク」ノ權ハ左ノ諸件ノミヲ記レタル箇條書ニ通ヲ出シテ官署ノ簿冊ニ記入スルヲ得可シ

第一 義務ヲ得可キ者ノ姓名、職業、現在ノ住所及ヒ其者「イポテーク」官署ノ管轄内ニテ別段自カラ擇ミタル住所又ハ他人ヨリ其者ノ為メ擇ミタル住所
第二 義務ヲ行、可キ者ノ姓名、職業、住

所又ハ其者ヲ明カニ知リ得可キ詳細ノ記載

第三 義務ヲ得可キ者ノ保有セントスル權利ノ種類及ヒ義務ノ高ノ定リタル時ハ其高

但レ偶生ノ條件ニ管シタル義務又ハ高ノ定マラサル義務ニ付テハ別段其高ヲ評價シテ定ムルニ及ハス

第一千五百五十四條 「イポテーク」又ハ「プリウレ」レノ權ヲ「イポテーク」ノ官署ノ簿冊ニ記入

シタル時ハ其日ヨリ十年ノ時間此等ノ權ヲ保有スルヲ得可シ若シ十年内ニ再ヒ其記入ヲ得サル時ハ其効終ル可シ

第一千五百五十五條 「イポテーク」又ハ「プリウレ」レノ權ノ記入ノ費用ハ別段ノ契約アルニ非サレハ義務ヲ行フ可キ者之ヲ擔當シ其義務ヲ得可キ者假リニ之ヲ前拂ニ為シ置ク可シ但シ法律上ニテ得ル所ノ「イポテーク」ノ權ヲ記入スルニ付テハ其管轄者義務ヲ行フ可キ者ヲシテ其記入ノ費用ヲ出サシムルヲ

求ムルヲ得可シ○又不動産ノ賣主其賣買ノ
證書ヲ「イボテ」ク官署ノ簿冊ニ登記スル
ヲ求メタル時ハ買主其登記ノ費用ヲ擔當ス
可シ

第一千五百五十六條

「イボテ」ク又ハ「ブ」リタレ
「ジ」ノ權ノ記入ノ事ニ付キ義務ヲ得可キ者
ニ對シ為ス可キ訴訟ハ其者ニ呼出シ狀ヲ送
達シ又ハ簿冊ニ記シタル其最終ノ住所別段
ヲタル住所ニ之ヲ送達シタル上管轄ノ裁判所
ニ之ヲ為ス可シ但シ其義務ヲ得可キ者又ハ

其者ノ別段擇ミタル住所ノ家主死去シタル
時ト雖モ亦同一ナリトス

○第五章

「イボテ」クノ權又ハ「ブ」リタ
レ「ジ」ノ權ノ記入ヲ塗抹スル事及
ヒ滅殺スル事

第一千五百五十七條

「イボテ」ク又ハ「ブ」リタレ
「ジ」ノ權ノ記入ヲ塗抹スル事ハ之ニ管係ア
リテ且其塗抹ヲ為ス「ブ」リ承諾シ得可キノ權
アル者ノ承諾ヲ以テ之ヲ塗抹レ又ハ終審ノ
裁判言渡ニ因リ或ハ更ニ上等裁判所ニ控訴

スルコトヲ得サル裁判言渡ニ因リ之ヲ塗抹ス
可シ

第一千五百五十八條

何レノ場合ニ於テモ「イボ
テ」ク又ハ「ブリダレ」シノ權ノ記入ノ塗抹
ヲ願出ル者ハ一方ノ者之ヲ承諾シタル旨ヲ
記シタル公正ノ證書ノ副本又ハ裁判言渡書
ノ副本ヲ「イボテ」ク管轄ノ官署ニ出ス可シ
第一千五百五十九條 雙方ノ者ノ中一方ノ承諾
ナクシテ「イボテ」ク又ハ「ブリダレ」シノ權
ノ塗抹ヲ得ント為スニハ其記入ヲ為シタル

地ヲ管轄スル裁判所ニ願出ス可シ然レ記入

ノ地ヲ管轄セサル裁判所ニテ未必ノ條件ニ

管スル裁判言渡ヲ受ケ又ハ金高ノ未定ナル

裁判言渡ヲ受ケ其言渡ノ保證トシテ記入ヲ

為シ置キ後ニ其裁判所ニテ其言渡ノ如ク執

行コト又ハ金高ヲ定ムルコトニ付キ債主ト負

債者ト訴訟ヲ為シタル時ハ其記入ノ塗抹ヲ

モ亦其裁判所ニ訴ヘ出ス可ク若シ其記入ノ

地ヲ管轄スル裁判所ニ其塗抹ヲ訴ヘ出スト

雖レ其裁判所ヨリ訴訟ヲ管轄スル裁判所ニ

其塗抹ヲ願フ可キ旨ヲ言渡ス可レ然レ義務
 ヲ得可キ者ト之ヲ行フ可キ者ト若レ塗抹ノ
 事ニ付キ争ノ生ヌルヲアラハ別段定メタル
 裁判所ニ訴ヘ出ス可キヲ契約シタル時ハ
 其契約ノ如ク執行ヲ可シ

第一千六百六十條 法律ニ循ハス又ノ證書ニ據
 ラスレテ「イボテーク」又ハ「ブリタレージ」ノ權
 ノ記入ヲ為シタル時又ハ證書アリト雖レ法
 ニ適セサル證書又ハ既ニ効ヲ失ヒシ證書又
 ハ既ニ算計ヲ為シタル證書ニ據テ其記入ヲ

為シタル時又ハ法律ニ適レタル法方ヲ以テ
 「ブリタレージ」ノ權又ハ「イボテーク」ノ權ヲ既
 ニ滌除シタル時ハ裁判所ヨリ其記入ノ塗抹
 ヲ言渡ス可レ

第一千六百六十一條 義務ノ行フ可キ者ノ現在
 所有スル不動産ト後日所有ト為ス「アル可
 キ不動産トニ付キ法律上又ハ裁判言渡ニ因
 リ「イボテーク」ノ記入ヲ得タル時其不動産ノ
 全部ニテハ義務ノ保證ヲ為スニ必要ト為ス
 ヲリ更ニ過分ナルニ於テハ其義務ヲ行フ可

キ者其記入シタル「イポター」クテ減殺シ又ハ至當ノ部分ニ過タル一部ノ記入ヲ塗抹セシト訴フルコト得可シ但シ此事ニ付テハ第二千五百五十九條ニ記シタル裁判所管轄ノ規則ニ循テ可シ

此條ノ規則ハ契約ニ因リ得ル所ノ「イポター」クノ權ニ通シテ用テ可カラス

第二千百六十二條 前條ニ記載シタル義務ヲ行テ可キ者ノ不動産全部ノ中一箇又ハ數箇ノ「イ」ノ價高ニテ義務ノ母銀一之ニ附帶シタ

ル高トノ總高ニ過ルコト三分一以上ナル時ハ其不動産全部ニ付テノ記入ヲ過分ナリトス

第二千百六十三條 又未必ノ事ニ管レタル義務又ハ高ノ未定ナル義務アリテ其義務ノ保證トシテ不動産ヲ「イポター」ト為スニ付キ別段ノ契約ナキ時其義務ヲ得可キ者其義務ノ高ヲ評價シ其高ニ從テ「イポター」クノ記入ヲ為シタルニ於テハ其記入ヲ過分ナリトシテ減スルコトヲ得可シ

第二千百六十四條 前條ノ場合ニ於テハ裁判

役其時ノ模様ト事實ノ思料トニ從ヒ義務ヲ
 得可キ者ノ權ト義務ヲ行フ可キ者ノ權トヲ
 斟酌シテ其「イポテ」クノ記入ノ過分ナルコ
 ヲ裁判ス可シ但シ嘗テ未必ナリシ事ノ現ニ
 生シタルニ因リ義務ノ高ノ更ニ増シタル時
 ハ更ニ其增高ニ付テ「イポテ」クノ記入ヲ
 為スコトヲ得可シ

第一千六百六十五條 不動産ノ價ヲ義務ノ高並
 ニ之ニ三分ノ一ヲ加ヘタル高ト比較セント
 スルニハ左ノ方法ヲ用フ可シ○損耗ス可カ

ラサル不動産ニ付テハ其不動産所在ノ地ニ
 テ地税目録ニ記スル所ノ税銀ノ高ト不動産
 歳入ノ高トノ鈎合ニ從ヒ其不動産ノ價ヲ其
 地税目録ニ因リ詳カニ知リ得可キ其不動産
 歳入ノ高ノ十五倍ト定メ又損耗ス可キ不動
 産ニ付テハ其價ヲ歳入ノ高ノ十倍ト定ム可
 シ○然レ裁判役ハ其不動産ノ真正ナル貸借
 ノ證書又ハ近年記シタル評價ノ調書又ハ其
 他此類ノ證書ニ記スル所ヲ以テ其不動産ノ
 價ヲ定ムル見合ト為シ其見合ト為シタル所

ヨリ得タル價高ノ中數ヲ取り其不動産ノ歳入ヲ秤ルコトヲ得可シ

○第六章 義務ヲ行フ可キ者ノ不動産ヲ所有ト為シタル者ニ付キ「フリ」又「ハイポテーク」ノ權ヨリ生スル諸件

第二百六十六條 義務ヲ得可キ者不動産ニ付テ「フリ」又「ハイポテーク」ノ權又「ハイポテーク」ノ權ヲ官署ノ簿冊ニ記入シタル時ハ其不動産何レノ人ノ所有トナルヲ問ハス其得可キ義

務ノ順序又「ハイポテーク」ノ順序ニ從テ義務ノ償ヲ得可シ

第二百六十七條 義務ヲ行フ可キ者ノ不動産ヲ所有ト為シタル者其不動産ニ付テノ義務ヲ滌除スル為メ後第二百八十一條ニ記スル所ノ法式ヲ行ハサル時ハ其義務ヲ得可キ者ノ官署ノ簿冊ニ記入シタル「ハイポテーク」又「フリ」又「ハイポテーク」ノ權ニ從ヒ其新ナル所有者其不動産ニ付テノ義務ヲ盡ク已ニ擔當ス可シ但シ其新ナル所有者ハ元來義務ヲ行フ可

キ者ノ得可キ所ノ期限ノ猶豫ヲ受クルトヲ得可シ

第一千六百六十八條 前條ノ場合ニ於テ義務ヲ行フ可キ者ノ不動産ヲ所有ト為シタル者ハ其義務ノ高ノ幾許ナルヲ問ハス既ニ拂ヒ期限ニ至リレ其母銀ト息銀トヲ償フ可シ若シ然ラサレハ其不動産ヲ全ク拋棄ス可シ

第一千六百六十九條 義務ヲ行フ可キ者ノ不動産ヲ所有ト為シタル者前條ニ記シタル二箇ノ處置中ノ一箇ヲ為サバ爾時ハ「イボテ」

ノ權アル義務ヲ得可キ者元來義務ヲ行ノ可キ者ニ要決ノ書ヲ送り且其不動産ヲ所有トナレタル者ニ其不動産ニ付テノ義務ヲ行ハサレハ其不動産ヲ拋棄ス可キ「イボテ」要メタルヨリ三十日ノ後ニ至リ其義務ヲ得可キ者其不動産ヲ差押ヘテ賣拂フ可キノ權アリ

第一千六百七十條 然レ義務ヲ行フ可キ者ノ不動産ヲ所有ト為シタル者其義務ヲ別段一身ニ擔當スル「イボテ」時元來義務ヲ行フ可キ者其義務ニ付キ「イボテ」ト為シタル他ノ不

動産ヲ更ニ所有スルニ於テハ新ニ不動産ヲ
 所有ト為シタル者己レノ得タル不動産ノ賣
 拂ヲ拒ミ此篇第十四卷證保ニ記スル法式ニ循
 ヒ更ニ他ノ不動産ヲ以テ先ツ其義務ノ償ニ
 充テレム可キノ訴ヲ為ス₁得可レ但シ其
 訴ヲ為ス時間ハ其所有ト為シタル不動産ノ
 賣拂ヲ延ス可シ

第一千七百七十一條 然レ義務ヲ得可キ者義務
 ヲ行ノ可キ者ノ不動産ニ付キ₁アリ₁レ₁ジ
 ノ權ヲ有シタル時又ハ別段契約ヲ為シテ₁イ

ボテ₁レ₁ノ權ヲ有シタル時ハ其不動産所有
 ノ權ヲ得タル者前條ニ記スル如ク其義務ヲ
 得可キモノニ對シテ其賣拂ヲ拒ム可カラス

第一千七百七十二條 義務ヲ行ノ可キ者ノ不動
 産ヲ所有ト為シタル者其義務ヲ行ノ₁ヲ₁一
 身ニ擔當スル₁ヲ₁ナキ時其者自己ノ財産ヲ隨
 意ニ為ス₁ヲ₁得可キ權アルニ於テハ其不動
 産ヲ拋棄レテ其義務ヲ免ル₁ヲ₁得可レ
 第一千七百七十三條 義務ヲ行ノ可キ者ノ不動
 産ヲ所有トナシタル者ハ自カラ其義務アリ

ト認メ又ハ裁判所ヨリ其義務ヲ行フ可キノ
 言渡ヲ受ケン後ト雖ル其不動産ヲ拋棄シテ
 其義務ヲ免ル、トヲ得可シ但シ其者其不動
 産ヲ拋棄スト雖ル之ヲ糶賣ト為スニ至ル迄
 ハ其義務ノ高ト其義務ニ付テノ費用ノ高ト
 ヲ拂ヒ其不動産ヲ取戻スノ妨トナルトナシ
 第二百七十四條 義務ヲ行フ可キ者ノ不動
 産ヲ所有ト為シタル者之ヲ拋棄スルトハ其
 不動産所在ノ地ヲ管轄スル裁判所ノ書記局
 ニ届ケ其裁判所ヨリ其拋棄ヲ為シタル證書

ヲ與フ可シ

其不動産ニ管係アル者ノ中最初ニ手續ヲ為
 ス者ソ求メニ從ヒ其拋棄シタル不動産ノ「モ
 ラト」ルヲ任ス可シ但シ其不動産ニ管係ア
 ル者ハ此篇第十九卷不動産抵償及ヒノ規則
 ニ從ヒ其「モ」ラト「ル」ニ對シテ其不動産ノ賣
 拂ヲ求ム可シ

第二百七十五條 義務ヲ行フ可キ者ノ不動
 産ヲ所有ト為シタル者ノ過失又ハ所為ニ因
 リ其不動産ヲ卑惡ニ至ラシメ「イボテ」ノ

權又ハ「アリタレ」ジノ權アル義務ヲ得可キ者ノ損害ヲ生シタル時ハ其義務ヲ得可キ者ヨリ其不動産ヲ所有ト為シタル者ニ對シ其損害ノ償ヲ得ント訴フルヲ得可シ又其不動産ヲ所有ト為シタル者其不動産ヲ良好ニ為シタル時ハ之レニ因リ其不動産ノ價ノ増加シタル高ニ至ル迄其良好ニ為シタル費用ノ高ヲ取戻スヲ得可シ

第二百七十六條 義務ヲ行フ可キ者ノ不動産ヲ所有ト為シタル者ハ其不動産ニ付キ

ボテ「ク」ノ權アル者ヨリ其義務ノ償又ハ其不動産ノ拋棄ヲ要ムルノ書ヲ受取リタル後ニ非サレハ其不動産ヨリ得ル所ノ入額ヲ其權アル者ニ渡スニ及ハス若シ又其「イボテ」クノ權アル者其不動産ヲ所有ト為シタル者ニ對シ一度訴訟ヲ為シタルヨリ三年ノ時間其訴訟ヲ止メ為サバ爾時ハ其不動産ヲ所有ト為シタル者更ニ其要メノ書ヲ受取リタル日ヨリ後ニ非サレハ其入額ヲ渡スニ及ハス

第二百七十七條 義務ヲ行フ可キ者ノ不動

産ヲ所有ト為シタル者之ヲ所有ト為ス前ニ
 其不動産ニ付キ土地ノ義務ヲ得可キノ權ヲ
 有シ又ハ其他ノ權ヲ有セシ時ハ後ニ其不動
 産ヲ抛棄シ又ハ糶賣ト為シタル上ニテ此等
 ノ權ヲ復ス可シ
 其不動産ヲ所有ト為シタル者ノ一身ヨリ義
 務ヲ得可キ者ハ元來義務ヲ行フ可キ者ヨリ
 其義務ヲ得可キ者ニ次キ其抛棄シ又ハ糶賣
 ト為シタル不動産ニ付キ各其順序ニ從テ「イ
 ボテ」トクノ權ヲ行フ可シ

第二百七十八條 義務ヲ行フ可キ者ノ不動
 産ヲ所有ト為シタル者「イボテ」トクノ義務ヲ
 行ヒ又ハ其不動産ヲ抛棄シ又ハ其不動産所
 有ノ權ヲ奪ハレタル時ハ元來義務ヲ行フ可
 キ者ニ對シ其償ヲ得ルノ訴ヲ為スノ權アリ
 第二百七十九條 義務ヲ行フ可キ者ノ不動
 産ヲ所有ト為シタル者其價高ヲ拂ヒ其不動
 産ニ付テノ義務ヲ滌除セント欲スル時ハ此
 卷ノ第八章ニ記シタル法式ニ循フ可シ
 ○第七章 「フリ」キ「レ」ジノ權及ヒ「イボ

テークノ權ノ消散スル事

第一千八百八十條 プリオリティノ權及ヒイポ

テークノ權ハ左ノ諸件ニ因リ消散ス可シ

第一 主タル義務ノ消散スル事

第二 義務ヲ得可キ者イポテークノ權

ヲ拋棄スル事

第三 義務ヲ行フ可キ者ノ不動産所有

ノ權ヲ得タル者其不動産ニ付テノイ

ポテーク又ハプリオリティヲ滌除ス

ル為メ定メタル法式ヲ行フタル事

第四 「ブレスクリプション」

義務ヲ行フ可キ者己レノ所有スル不

動産ニ付キ「イポテーク」又ハ「プリオリ

ティ」ノ權ノ「ブレスクリプション」ヲ得

可キ期限ハ此等ノ權ヲ生セシメタル

主タル權利ニ付テノ「ブレスクリプ

ション」ノ期限ト同一ナリ第二千二百六十ニ

合條見

義務ヲ行フ可キ者ノ不動産ヲ所有ト

為シタル者其不動産ニ付テノ「プリオリ

レージ又ハイポテークノ權ノプレス
 クリップシテ得可キ期限ハ總テ不動
 産ノ占有者其不動産ニ付キ所有ノ權
 ノ得可キプレスクリプションノ期限ト
 同一ナリトス又プレスクリプションヲ得
 ルニ付キ證書アル場合ニ於テハ其證
 書ヲハイポテーク管轄者ノ簿冊ニ登記
 レタル日ヨリ以來其プレスクリプシ
 ンヲ得ルニ付テノ期日ヲ算フ可シ
 二千二百六十
 五條見合

義務ヲ得可キ者其ブリクレーシノ權
 又ハイポテークノ權ヲ官署ノ簿冊ニ
 記入レタルト雖モ義務ヲ行フ可キ者
 又ハ其者ノ不動産所有ノ權ヲ得タル
 者ノ為メ法律上ニテ定メタルプレス
 クリップシテノ既ニ經過レタル時間ヲ
 除棄ス可カラス

○第八章 プリクレーシノ權及ハイポ
 テークノ權ヲ濫除スル法方

第二千八百一十一條 義務ヲ行フ可キ者ノ不動

産所有ノ權ヲ得タル者其不動産ニ付テノ「イ
 ヲテ」及ヒ「イポテ」ノ權ヲ滌除セン
 ト欲スル時ハ先ツ不動産所有ノ權ヲ移ス契
 約書ノ全文ヲ其不動産所在ノ地ノ「イポテ」
 「管轄者」ノ簿冊ニ登記セシムル手續ヲ為ス
 可レ
 其登記ハ特ニ設ケタル簿冊ニ之ヲ為シ且其
 管轄者ヨリ其登記ヲ求メタル者ニ其登記ヲ
 為シタルノ證書ヲ渡ス可シ
 第二千八百二十二條 不動産所有ノ權ヲ移ス契

約書ヲ「イポテ」ノ簿冊ニ登記シタルノ「
 ニ」ハ其不動産ニ付テノ「イポテ」及ヒ「
 ヲテ」ノ權ヲ滌除スルヲ得ス
 賣主ハ買主ニ其不動産所有ノ權及ヒ其不動
 産ニ管シタル其他ノ權ヲ移シタルノ「ニ」テ
 「イポテ」及ヒ「イポテ」ノ權ハ滌除ス
 ルヲナク其儘之ヲ移シタルモノトス
 第二千八百二十三條 義務ヲ行フ可キ者ノ不動
 産所有ノ權ヲ得タル者此卷ノ第六章ニ記シ
 タル訴訟ノ管係ヲ免レント欲スル時ハ其訴

訟ヲ受クル前又ハ最初ニ要メテ受ケン時ニ
 千百六十ヨリ三十日内ニ「イボテ」ク官署ノ
 九條見合ヨリ
 簿冊ノ記入ニ付キ義務ヲ得可キ者ノ別段擇
 タル住所ニ左ノ書類ヲ送達ス可シ

第一 不動産所有ノ權ヲ移ス證書ノ日
 附及ヒ其模様、賣主又ハ贈遺者ノ姓名
 及ヒ其人ヲ知り得可キ詳明ナル記載
 買受ケ又ハ贈遺トシテ得タル不動産
 ノ種質及ヒ所在ノ地、又一團ヲ為シタ
 ル不動産ニ付テハ其不動産ノ名目及

ヒ其所在ノ「アル」ロシダスマン」ノ名不
 動産ノ價高及ヒ其賣買ニ付テノ費用
 高、又不動産ヲ評價シタル時ハ其評價
 ノ高第十二條見合ヲ記シタル其賣買ノ
 證書ノ摘撮書

第二 不動産所有ノ權ヲ移ス證書ヲ官
 署ノ簿冊ニ登記シタル其登記ノ摘撮
 書

第三 三列ニ區分レタル表但レ其第一
 列ニハ「イボテ」クノ日附及ヒ之ヲ官

署ノ簿冊ニ記入シタル日附第二列ニハ義務ヲ得可キ者ノ姓名第三列ニハ官署ノ簿冊ニ記入シタル義務ノ高ヲ記ス可シ

第二千八百八十四條 不動産ノ原主又ハ其贈遺ヲ受クル者ハ既ニ拂ヒ期限ニ至リシト否トヲ問ハス其不動産ノ價高ニ至ル迄ハ總テ「イ」ボテ「ク」ノ負債及ヒ費用ヲ直チニ拂ハント為ス「フ」ヲ記シタル書面ヲ前條ニ記シタル書類ニ添ヘテ送ル可シ

第二千八百八十五條 義務ヲ行フ可キ者ノ不動産ヲ得タル者定期ノ時間ニ前條ニ記シタル書類ヲ義務ヲ得可キ者ニ送達シタル時ハ其義務ヲ得可キ者ノ中ニテ官署ノ簿冊ニ「イ」ボテ「ク」又ハ「フ」カ「レ」ノ權ノ記入ヲ得タル者其不動産ヲ糶賣ニ為スノ要メヲ為ス「フ」ヲ得可シ但シ其要メヲ為スニハ左ノ諸件ヲ必要トス

第一 其要メヲ為ス書面ハ不動産ヲ得タル者ヨリ第二千八百八十三條ニ記セ

レ書類ノ送達ヲ得タル時ヨリ四十日
 内ニ之ヲ其者ニ送ル可レ但レ其要メ
 ヲ為ス者ノ別段擇ミタル住所ト現在
 ノ住所トノ間五^リミヤメト^ルノ距
 離毎ニ其四十日ノ期限ニ二日ヲ増ス
 可レ

第二、其要メヲ為ス書面ニハ不動産賣
 買ノ契約書ニ記レタル價又ハ不動産
 ノ得タル者ノ述フル所ノ價ヨリ更ニ
 十分一ヲ増ス可キヲ保證スル旨ヲ

記ス可レ

第三 第一項ニ記スル期限内ニ其不動
 産ノ以前ノ所有者元來義務ノニモ亦
 行^ノ可^キ者
 同一ノ書面ノ送ル可レ

第四 其要メヲ為ス書面ノ正本及ヒ副
 本ニハ其要メヲ為ス者又ハ證書ヲ以
 テ任レタル其名代人己レノ姓名ノ手
 署ス可レ但レ名代人ヲ任レタル時ハ
 其名代人其任ノ受ケタル證書ノ副本
 ヲ出ス可レ

第五 其要メヲ為ス者ハ價高ト費用トノ總高ニ充ル迄ノ保證ヲ立ント述フ可レ

此等ノ諸件ヲ為サバハ時ハ其要メノ効ナカル可レ

第二千百八十六條 義務ヲ得可キ者前條ニ記シタル定期内ニ法式ニ從ヒ糶賣ヲ為スヲ要メサル時ハ不動産ノ價ヲ其賣買ノ契約書ニ記シタル價又ハ之ヲ得タル者ノ述ヘタル價ニ定ム可レ但シ其不動産ヲ得タル者ハ義務

務ヲ得可キ數人中ニテ其價高ヲ受取ルヲ得可キ順序アル者ニ其價高ヲ拂ヒ又ハ之ヲ官署ニ附託スルニ因リ「^イポテーク」ノ除外ヲ得可レ

第二千百八十七條 其不動産ヲ糶賣ニ為サントスル時ハ義務ヲ得可キ數人中ニテ其糶賣ノ要メヲ為シタル者又ハ其不動産所有ノ權ヲ得タル者ノ求メニ從ヒ義務ヲ行フ可キ者ノ不動産ヲ賣拂フニ付テハ法式訴訟法第八百三十一條以下見合ヲ以テ之ヲ糶賣ニ為ス可レ

其手續ヲ為ス者ハ賣買ノ契約書ニ記シタル
價又ハ其不動産ヲ得タル者ノ述ヘタル價ト
其十分一ヲ増シタル價トヲ貼附書ニ記ス可
レ

第一千八百八十八條 糶賣ニテ不動産ヲ買入ル
ル者ハ其買入ノ價高ノ外其賣買ノ契約ノ費
用高^イボテ^ク管轄者ノ簿冊ニ登記ヲ得ク
ル費用高^{第一}千^百八^十條見合^ハ書額送達ノ費用高^{第二}千^百
八^十條見合^三糶賣ヲ為スニ付テノ費用高^ヲ以前其
不動産ヲ買入レタル者又ハ贈遺トレテ之ヲ

得タル者ニ償フ可レ

第一千八百八十九條 以前不動産ヲ買入レタル
者又ハ贈遺トレテ之ヲ得タル者糶賣ノ時自
カラ再ヒ之ヲ買入レタル時ハ其買入レテ許
ルス言渡書ヲ^イボテ^リ官署ノ簿冊ニ登記
セシムルニ及ハス

第一千八百九十條 義務ヲ得可キ者ノ中糶賣ヲ
為ス^ト要^スタル者後ニ其糶賣ヲ為ス^ト要
ス^ル自カラ止^メ其保證シタル金高ヲ拂^ツタルト
雖^レ其不動産ニ付キ^イボテ^リク^ノ權ヲ有ス

ル數人、明ナル承諾アルニ非サレハ其糶賣ヲ止ム可カラス

第一千九十一條 以前不動産ヲ買入レタル者其糶賣ノ時自カラ再ビ之ヲ買入レタル時ハ以前ノ賣買ノ契約書ニ記レタル價ニ増レタル其價高並ニ其增高ヲ拂フタル時ヨリ以來、其息銀ヲ以前ノ賣主ヨリ受取ル可キノ權アリ

第一千九十二條 以前不動産ヲ得タル者ノ有ル證書ハ買入ノ證書又ニ動産ト不動産ト

ヲ混合シテ記シタル時又ハ數箇ノ不動産ヲ記シ其中ニ「イポテリクト」為シタルモノアリ或ハ「イポテリクト」為シタルモノアリ又ハ「イポテリクト」為シタル不動産ノ中ニ「イポテリクト」官署ノ管轄地内ニアルモノアリ或ハ他ノ管轄地ニアルモノアリ又ハ「イポテリクト」為シタル不動産ノ中ニ相合レタル價ニテ買入レタルモノアリ或ハ價ヲ分テ買入レタルモノアリ又ハ其不動産ノ中ニ同種ノ耕作ノ法ヲ用フルモノアリ或ハ其耕作ノ法ノ相異ナ

ルモノアル時ハ其不動産ヲ得タル者此義務
 ノ「イポテーク」ト為シタル不動産ノ價ハ其證
 書前ニ記セシ買入ニ記スル全價ノ中幾許彼
 義務ノ「イポテーク」ト為シタル不動産ハ其全
 價ノ中幾許タルヤヲ見積リ其積高ヲ義務ヲ
 得可キ者ニ送達スル書面第千八百八十二條ニ記入
 ス可シ
 義務ヲ得可キ者ノ中不動産ヲ糶賣ニ為サシ
 トスル者ハ動産並ニ自己ノ「イポテーク」ノ權
 ノ記入ヲ得タル官署ノ管轄内ニアラザル不

動産ニ付キ元價ヨリ更ニ十分一ノ價ヲ増ス
 可キノ保證ヲ為スニ及ハス但レ嘗テ其不動
 産ヲ得タル者ハ其賣主又ハ之ヲ贈遺ト為シ
 タル者ニ對シ其數箇ノ物件ヲ分ツニ付テノ
 損失ノ償又ハ同一ノ耕作ノ法ヲ用ヒタル不
 動産ヲ分ツニ付テノ損失ノ償ヲ得ント要ム
 ルトヲ得可シ

○第九章 夫又ハ後見人ノ不動産ニ付

キ「イポテーク」ノ權ノ記入アラナル
 時其「イポテーク」ヲ滌除スル方法

第二千九百九十三條 後見人其支配ノ事ニ付キ
 知者ノ為メニ己ノ不動産ヲイボテト為
 スト官署ノ簿冊ニ記入シタルトナク又ハ
 夫其婦ノ家資ヲ還與シ又ハ婚姻ノ契約ノ如
 ク執行フニ付キ婦ノ為メニ己ノ不動産ヲイ
 ボテト為ストヲ記入シタルトナキ時ハ
 其後見人又ハ夫ノ不動産ヲ買入レタル者其
 不動産ニ付テノイボテトヲ滌除スルトヲ
 得可シ

第二千九百九十四條 其不動産ヲ買入レタル者

ハ其滌除ヲ得ル為メニ其賣買ノ契約書ノ校
 正シタル副本一通ヲ其不動産所在ノ地ノ民
 法裁判書ノ書記局ニ納メ且婦又ハ後見人ノ
 監察者並ニ其裁判所ノプロキリクルアンベ
 リアルニ書面ヲ送達シテ其賣買ノ契約書ノ
 副本ヲ裁判所ノ書記局ニ納メシ旨ヲ證ス可
 シ○其契約ヲ為レタル日附其契約ヲ為レタ
 ル者ノ姓名職業住所并ニ其不動産ノ種類及
 ビ所在ノ地其不動産ノ價及ヒ其賣拂ニ付テ
 ノ費用ヲ記シタル契約書ノ摘撮書ヲ二月間

裁判所ノ訟庭ニ貼附シ置ク可シ○其二月ノ
 時間ハ婦夫後見人其監察者幼者治産ノ禁ヲ
 受ケル者及ヒ此等ノ者ノ親族朋友又ハ「プロ
 キリタルアレンベリアル」ヨリ其賣拂「タル不
 動産」ニ付テ「イポテーク」ノ權ヲ「イポテーク」
 管轄者ノ簿冊ニ記入スル「ヲ要」ルヲ得可
 ク其記入ヲ為シタル時ハ婚姻ノ契約ヲ結ビ
 シ日又ハ後見人ノ其職務ヲ行ヒ始メタル日
 ニ其「イポテーク」ノ權ノ記入ヲ為シタルト同
 一ノ効アリトス但シ此場合ニ於テ夫又ハ後

見人其不動産ハ婚姻又ハ後見ノ職ニ付キ既
 ニ「イポテーク」ト為シタル「ヲ陳述」スル「ヲナ
 ク他人ニ之ヲ「イポテーク」ト為シタル時ハ其
 夫又ハ後見人前ニ「第六條以下見合」記シタル如
 ク訴訟ヲ受ク可レ

第二千九十五條 契約書ノ摘撮書ヲ貼附レ
 タルヨリ二月ノ時間ニ婦幼者治産ノ禁ヲ受
 ケル者ノ為メ不動産ニ付テ「イポテーク」ノ
 權ヲ官署ノ簿冊ニ記入スル「ヲナキ時ハ婦ノ
 嫁資ヲ還與シ及ヒ婚姻ノ契約ノ如ク執行ヲ

「又ハ後見人ノ支配ノ「イポテ」
 クヲ滌除シテ其不動産所有ノ權ヲ全ク其買
 主ニ移ス可レ但レ婦、幼者、治産ノ禁ヲ受ケレ
 者ヨリ夫又ハ後見人ニ對レ訴ヲ為ス可キノ
 理アル時ハ之ヲ為ス「イ」得可レ
 二月ノ時間ニ婦、幼者、治産ノ禁ヲ受ケレ者ノ
 為メ「イ」ボテ「ク」ノ權ノ記入ヲ為レタルト雖
 此等ノ者ノ權ヲ生レタル以前ニ義務ヲ得
 可キノ權ヲ得タル者アリテ其夫又ハ後見人
 ノ不動産ノ價ノ全部又ハ一部ヲ得可キ時ハ

其不動産ノ買主其價ノ全部又ハ一部ヲ其義
 務ヲ得可キ者ニ拂フタルニ因リ其不動産ノ
 全部又ハ一部ニ付テ「イ」ボテ「ク」ノ滌除ヲ
 得婦、幼者、治産ノ禁ヲ受ケレ者ノタメ為レタ
 ル「イ」ボテ「ク」ノ權ノ記入ヲ全ク塗抹シ又ハ
 其一部ヲ塗抹ス可レ
 又婦、幼者、治産ノ禁ヲ受ケレ者ノ為メ其「イ」ボ
 テ「ク」ノ權ノ記入ヲ為レ嘗テ其權ヲ生シタ
 ル順序他ノ義務ヲ得可キ者ノ權ヲ生シタル
 ニ先チタル時ハ其夫又ハ後見人ノ不動産ノ

買主ヨリ其價高ヲ他ノ義務ヲ得可キ者ニ拂
 テ其婦、幼者、治産ノ禁ヲ受ケル者ノタメ為
 レタル「イボテーク」ノ權ノ害ヲ為ス可カラス
 但シ其「イボテーク」ノ權ノ記入ハ前條ニ記レ
 タル如ク婚姻ノ契約ヲ結ビタル日又ハ後見
 人ノ職務ヲ行ヒ始メタル日ニ之ヲ為レタル
 ニ等レク看做ス可レ○此場合ニ於テハ他ノ
 義務ヲ得可キ者ノ「イボテーク」ノ記入中ニテ
 其義務ノ償ヲ得可キ順序外ノモノハ之ヲ塗
 抹ス可レ

○第十章

「イボテーク」ノ官署ノ簿冊ヲ
 公ニスル事及ヒ「イボテーク」管轄者
 ノ擔當ス可キ條件

第二百九十六條

「イボテーク」ノ管轄者ハ其
 簿冊ニ登記シタル證書ノ寫又ハ其簿冊ニ記
 入シタル「イボテーク」ノ權又ハ「イボテーク」
 ノ權ノ記入ノ寫又ハ其記入ナキノ請合書ヲ
 得レト求ムルモノアル時ハ此等ノ書類ヲ渡
 ス可レ

第二百九十七條

「イボテーク」ノ管轄者ハ左

ノ二件ニ因リ生シタル損失ノ償フ擔當ス可

第一 其簿冊ニ不動産所有ノ權ヲ移ス

證書ヲ登記ス可キノ求メヲ受ケ又ハ

イボテークノ權及ヒゴブリウレージノ

權ノ記入ヲ為ス可キノ求メヲ受ケテ

之ヲ怠リタル時

第二 其管轄者現ニ記入シタル一箇又

ハ數箇ノゴブリウレージノ權又ハイボ

テークノ權アルトテ怠レ此等ノ權ヲ

キノ請合書ヲ渡シタル時但ニ嘗テ記

入ヲ求メン者ノ陳述スル所不十分ナ

ルニ因リ管轄者ニ過失ヲ歸ス可カラ

サル時ハ格別ナリトス

第二百九十八條 イボテークノ管轄者不動

産ニ付テノ一箇又ハ數箇ノゴブリウレージノ

權及ヒイボテークノ權アルトテ怠レ此等ノ

權ナキノ請合書ヲ渡シタル時其不動産所有

ノ權ヲ得タル者其所有ヲ得タル證書ノ登記

ヲ得タル後ニ其管轄者ヨリ全上ノ請合書ヲ

得タルニ於テハ其不動産ニ付テノアリウレ
 ービノ權及ヒイボテークノ權ヲ負フヲナク
 之ヲ所有スルヲ得其管轄者其過失ノ責ニ
 任ス可シ但シ其不動産ヲ得タル者未ダ其價
 高ヲ拂ハサル時間又ハ義務ヲ得可キ數人其
 間ニ定メタル順序ニ付キ裁判所ノ允許ヲ得
 サル時間ハ其義務ヲ得可キ數人相當ノ順序
 ヲ以テ其不動産ノ價高ヲ受取ルヲ得可シ
 第二千九十九條 イボテークノ管轄者ハ不
 動産所有ノ權ヲ移ス證書ヲ登記スルヲイボ

テークノ權ヲ記入スルヲイボテークノ記入ノ
 アラサル請合書ヲ渡ストラ拒ミ又ハ遅延ス
 可カラス若シ之ヲ拒ミ又ハ遅延スル時ハ其
 損失ヲ受ケタル者ニ償ヲ為ス可シ但シ其損
 失ヲ受ケタル者其償ヲ得ントスルニハ其旨
 ヲ願出シ最下等裁判所ノ裁判役又ハ下等裁
 判所ノ訟庭掛リノ門監又ハ其他ノ門監又ハ
 證人ニ負ノ立會ヲ得タルノチイニ直ニ其管
 轄者ノ答ノ調書ヲ記ス可シ
 第二千二百條 又イボテークノ管轄者ハ別ニ

簿冊ヲ設ケ置キ不動産所有ノ權ヲ移ス證書
 又ハイポテーノ權及ヒブリヂノ權
 ノ記入ヲ得ル為メノ箇條書ヲ受取リタル事
 ヲ毎日番號ヲ附シテ其簿冊ニ書留メ且願出
 テタル者ニ其差出セシ証書又ハ箇條書ヲ受
 取リタル旨ヲ證スル書付テ渡ス可シ但シ其
 受取書ハ證印アル紙ニ記シ之ヲ書留メタル
 簿冊ノ番號ヲ附記ス可シ○其管轄者ハ不動
 產所有ノ權ヲ移ス證書又ハイポテーノ權
 及ヒブリヂノ權ノ記入ヲ得ル為メノ

箇條書ヲ受取リタル順序ト日附トニ從ヒ此
 等ノ書類ヲ簿冊此簿冊ハ登記又ハ記ニ登記
 入ノ為メノ簿冊ヲ云ニ登記
 シ又ハ記入ス可シ

第二千二百一條 「イポテー」ノ管轄者ノ簿冊ハ
 皆證印アル紙ヲ用ヒ且其官署ノ所在ノ地ヲ
 管轄スル下等裁判所ノ裁判役一人其簿冊ノ
 初葉ヨリ冊尾ニ至ル迄記號ヲ附シ且姓名ノ
 手署ニ代用スル横線ヲ畫ス可シ○其簿冊ハ
 總テ證書類ヲ記録スル簿冊ノ如ク毎日之ヲ
 修整スヘシ

第二千二百二條 「イポテークノ管轄者ハ其職務ヲ行フニ付キ此章ニ記スル所ノ規則ヲ遵守ス可シ若シ此規則ニ背ク時ハ初犯ニ付テハ二百フランノヨリ少カラス千フランノヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ再犯ニ付テハ其職ヲ退ケラル可シ又其管轄者ノ罪ニ因リ損失ヲ受クル者アル時ハ罰金ヨリ先キニ其者ヘノ償ヲ出ス可シ

第二千二百三條 「イポテークノ管轄者不動産ノ證書類ヲ受取リタルトテ其簿冊ニ記シ又

ハ「ブリーキレージノ權及ヒ「イポテークノ權ヲ其簿冊ニ記入シ又ハ不動産所有ノ權ヲ移シタル契約書ヲ其簿冊ニ登記スルニハ空行刺白ナク之ヲ為ス可シ若シ其管轄者此規則ニ背ク時ハ千フランノヨリ少カラス二千フランノヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ又其罪ニ因リ損失ヲ受ケタル者アル時ハ罰金ヨリ先キニ其者ヘノ償ヲ出ス可シ

辻士革筆受

佛蘭西民法十五終

